



# 瀬戸市が 日本遺産に認定 されました!

瀬戸焼、常滑焼、信楽焼、丹波焼、備前焼、越前焼の六古窯の産地が提唱する「きっと恋する六古窯-日本生まれ日本育ちのやきもの産地-」のストーリーが、日本遺産として認定されました。

千年以上の歴史と伝統を有するやきもの産地である瀬戸市がその歴史に名誉ある称号を授かりました。鎌倉・室町時代では、唯一、釉薬を施した製品が焼かれ、さまざまな釉薬を駆使したやきものづくりは、時代を超えて多くの人々を魅了し続けています。「時空を超えて日本の原風景に出会うことができる」。申請したストーリーそのままの風景が今も息づいています。



## 1 「日本六古窯」とは?

日本の中世期に陶器生産を開始し、現代まで継続している陶器産地という基準で選ばれた六ヶ所の窯業地であり、瀬戸・常滑・信楽・丹波・備前・越前の六窯を指します。

六古窯の命名は、古陶磁研究家の小山富士夫氏によって昭和23年ごろ行われました。六古窯は長い歳月の間に様々な変貌をとげつつ今日にいたっています。



## 2 「日本遺産(Japan Heritage)」って何?

地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語る「ストーリー」を日本遺産として文化庁が認定するものです。ストーリーを語るうえで欠かせない魅力あふれる文化財群を活用し、地域の活性化を図ることを目的としています。



## 3 どんなストーリーが認定されたの?

長い歳月の間、窯の火を絶やすことなく、連綿と現在まで生産が続く歴史的ストーリーが認定されました。全国的にも貴重なやきもの産地特有の文化財やまち並みをめぐるストーリーを展開しています。

### 「きっと恋する六古窯-日本生まれ日本育ちのやきもの産地-」ストーリーの概要

瀬戸、常滑、信楽、丹波、備前、越前のやきものは「日本六古窯」と呼ばれ、縄文から続いた世界に誇る日本古来の技術を継承

している、日本生まれ日本育ちの、生粋のやきもの産地です。中世から今も連綿とやきものづくりが続くまちは、丘陵地に残る大小様々の窯跡や工房へ続く細い坂道が迷路のように入り組んでいます。恋しい人を探すように煙突の煙を目印に陶片や窯道具を利用した堀沿いに進めば、「わび・さび」の世界へと自然と誘い込まれ、時空を超えてセピア調の日本の原風景に出会うことができます。

## 4 見どころは?

一つひとつ違った個性あふれる幾何学的な模様の「窯垣」など、やきもの産地特有のまち並みや文化財です。また、瀬戸のまちを歩けば、曲がりくねった道や坂が連なり、やきものまちならではの風情を体感でき、訪れた人の心を惹きつけます。ストーリーのタイトル「きっと恋する六古窯」には、心を惹きつける瀬戸のまちに、恋するように何度も足を運んで欲しい、そんな思いが詰まっています。

## 5 今後の取り組み

日本遺産認定を機に、6市町連携のもと、魅力発信に取り組み、「瀬戸焼」の国内外の知名度を高めるとともに、観光や産業の振興、まちのブランド化を図っていきます。

ストーリーの構成文化財など、くわしくは市ホームページ「ビジネス・産業」→「産業振興」→「やきもの振興」をご覧ください。